

葉山災害ボランティアセンターポータルサイトに発災時のサンプルページが登場

HSVNでは一昨年より「葉山災害ボランティアセンターポータルサイト」を作成・運営してきており、その高い完成度は他のポラネットからも注目的となりました。是非同様のものを作りたいという声もいただき、リーダーの吉田見岳さんが講師として各地で講習会をおこなっていたりします。

そのサイトが昨年秋に更にパワーアップし、発災時に情報を発信したり、ボランティア募集告知をおこなったりする情報拠点となるサンプルページを開設しました。

サンプルと銘打っていますが、大きな災害が起きた時には、まさにこのページが直ちに災害ボランティアセンターの情報サイトの土台となるように作られています。平常時にこの段階まで作りこんでおくことで、いざという時に迅速な情報発信・収集に取り掛かることができるでしょう。

現在（平常時）のトップページ



http://ecom-plat.jp/ictkanagawa_sv/index.php?gid=10143
下記のQRコードを読取るとすぐにページにアクセスできます

現在、ポータルサイト・防災マップの編集をお手伝いいただける方を募集しております。ご興味のある方は hsvn77@yahoo.co.jp またはHSVNのフェイスブックページからお問い合わせください。

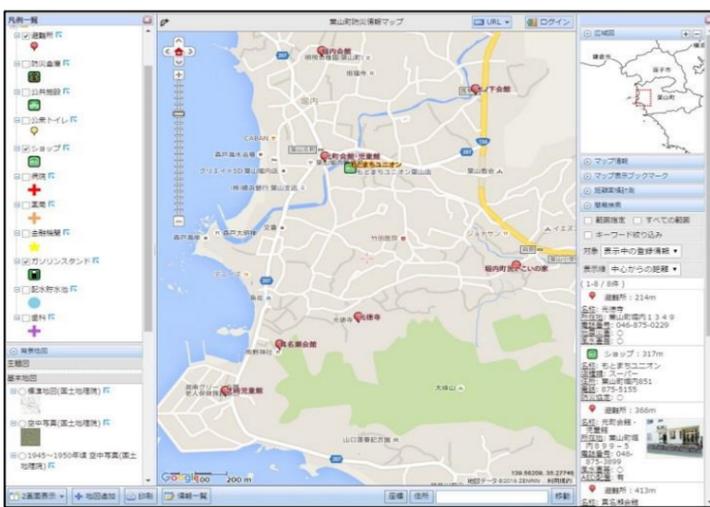
葉山災害ボランティアネットワーク(HSVN)
http://ecom-plat.jp/ictkanagawa_sv/index.php?gid=101
フェイスブック <https://www.facebook.com/hsvn77>
メールアドレス hsvn77@yahoo.co.jp 入会随時受付中

発災時のトップページ（サンプル）



サイトでは「葉山災害情報地図」、「ボランティアのみなさんへ」、「葉山町のみなさんへ」というメニューが用意されています。

葉山町防災情報マップ



「葉山災害ボランティアセンターポータルサイト」は国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)の支援を受けて、防災科研が提供するeコミュニティプラットフォーム上に葉山の防災情報ポータルサイトを構築したものです。

HSVN

葉山災害ボランティアネットワーク

ニュース

第3号2017年初夏号

東日本大震災から6年

あの東日本大震災から6年がたちました。「もう6年」でもあり、「まだ6年」でもあるのですが、3月の時点で東北の被災3県では東京電力福島第一原発事故の自主避難者を含めて3万3,748世帯、7万1,113人がいまだに仮設住宅（仮住まい）での生活を余儀なくされています。岩手、宮城両県は住宅再建で仮設からの退去が進んでいるが、福島県は原発事故の影響で先行きを見通せずにいる（河北新報調べ）との事です。

葉山語り場 2017年 3月11日

東日本大震災から6年 あの日を忘れない

東日本大震災から6年目。あの日を語り継ぐことが将来必ず起こる災害への備えとなるはずですが、それは、失われた多くの命が私たちに残してくれたメッセージではないでしょうか。語りましょ、あの日をわすれないために。

3月11日(土) 10:00~15:00
元町会館中会議室 14:46に黙とうを行います

「逃げ地図」を作ってみませんか？
「あまっ」の用意をしてお待ちします。

被災地支援のために、古本と古Tシャツを集めます。当日会場にお持ちください。以下は受け付けの目安です。古本専用-2000円以上、古T専用-1000円以上、古本古T専用-1000円以上

葉山災害ボランティアネットワーク(HSVN)
フェイスブック <https://www.facebook.com/hsvn77>
メールアドレス hsvn77@yahoo.co.jp 入会随時受付中

HSVNでは6年目にあたる3月11日に元町会館をお借りして、「葉山語り場 あの日を忘れない」を開催しました。震災の起きた14:46分には全員で黙祷し、多くの犠牲になられた方々のご冥福をお祈りしました。会場前では被災地から取り寄せた食材を販売したり、布草履を制作販売して復興に取り組んでいる女川高白浜草履組合に送る古Tシャツの収集、陸前高田の図書館再建のための古本を収集しました。

いつまでも「あの日を忘れない」こと。それを通じて、次の災害に対する備えとすること。それが、あの災害で犠牲になられた多くの方々へのなによりの追悼となるのではないのでしょうか。



逃げ地図を作ってみました



今回の「語り場」では同時に「逃げ地図」を作るミニ訓練を行いました。「逃げ地図」とは津波が到達しないであろう安全な場所まで、町内の各所から歩いてどのくらいの時間でたどり着けるのか？という事が一目でわかるように色分けした地図です。当日は「逃げ地図」の普及活動を行っている「子供安全まちづくりパートナーズ」から指導員をお招きして、参加者全員で地図を作ってみました。対象は森戸海岸を中心とした地区でしたが、平均した歩き方で(※)15~20分程度で安全な場所に到達できるとわかりました。

※速度は【43m/分】。この速さは、お年寄りが傾斜度10度の坂道を歩くときの速さを考えたもの。



あの日を忘れない

第4回災害ボランティアセンター設置運営訓練（2月19日）

初のロールプレイング訓練を実施！

今までで最大、53名の参加

プレイヤーは配役カードに記載された役割を演じます

共催：HSVN・社協
後援：葉山町



訓練を終えて

結果を踏まえ、マニュアルの変更、使用する様式の改定などを行っていく予定です。併せて秋には一部専門性を高めた訓練も計画しています。

今回で4回目となる「災害ボランティアセンター設置運営訓練」が2月19日（日）に消防署地下講堂で行われました。HSVN会員のほか、町内会、他団体に加え、横須賀、逗子、金沢区のボラネットからも参加していただき、今までで最大となる53で行われました。

今回の訓練は「災害救援ボランティア推進委員会」作成の「災害ボランティアセンター運営ロールプレイング実施要領(2014公開版)」を基に、葉山版「ボランティアセンター設置運営マニュアル」に合致した内容にアレンジを加えた「葉山バージョン」として行いました。

参加者は「ボランティア受付班」「ニーズ受付班」「マッチング・資機材班」「ボランティア役」の4チームに分かれて、渡された配役カードに記載された役割を演じる、というロールプレイング形式で行いました。

ロールプレイは1セットをおおよそ15分程度に区切り、それぞれのチームが同時にロールプレイを進行させていき、1セットが終了すると、チームごとに役割を交代して、再度同じロールプレイを行うという方式で、結果として3セット行うことができました。

若干の混乱もありましたが、それがリアルだ、という声もあつたりして、なかなか迫真のロールプレイを行うことができました。それぞれのチームが運動しつつ、補い合いながら円滑な進行を目指すことで、ボランティアセンターの運営のイメージをリアルに体感することができたと思います。

参加者の声

- ・イメージの沸く訓練でした。
- ・いざという時のための今回みたいな模擬体験はよいと思う。パターンを変えて何度でもやるのがよいと思った。
- ・色々な役割を体験できてそれぞれの視点で考えることができ良かったです
- ・実体験することで良かったこと、悪かったことが掴めた。今後もこの方法で実体験しながら慣れていくことが必要と思う。

種類	内容
ボランティアカード用	
セリフ	「大学テニスサークル5名代表、可能ならなんでもやります。」
★1団体ボランティア	受付で伝える(書く)こと 職業種別・・・学生 資格特技・・・なし、力仕事可能 活動経験・・・無 希望活動・・・がれき撤去
質問	ボランティア活動証明書はありますか？

種類	内容
被災者カード用	
★1被災者	【依頼者】ナガエカズヤ 「床上浸水の自宅1階の家具、畳、布団の撤去をお願いします。」 受付で伝える(書く)こと 【依頼内容】撤去 【資機材】おまかせ 【住所】木古庭 【留意点】家具、布団、濡れ畳 【作業量】大体5人で後1日くらい 継続案件/1日実施済 派遣依頼票/N0218-1-2



ラーメンあじ平長柄店



感謝！

葉山災害ボランティアネットワークは三留モーター商会様、ラーメンあじ平長柄店様から「支援活動準備金」のご支援をいただいで活動しております。



緊急支援活動の報告

2016年 9/20-21、岩手県岩泉町において、台風10号による水害被害に対する緊急支援活動を行いました。

2016年8月30日台風10号が観測史上初めて太平洋岸から東北地方に上陸し、岩手県内に甚大な被害をもたらしました。中でも岩泉町は19人の死亡が確認され、町の半分近くの2,000戸以上が被災しました。岩泉町は本州で一番広い町（東京23区の1.5倍）でありながら、町職員189名、社協職員は4名しかいないという町であり、被害は多地域にまたがり、交通が途絶した地区も多かったため、対応が追い付かない状況が暫く続きました。

HSVN2名が岩手県社協の無料ボラバスで盛岡から安家地区に入ったのは、9月20日でしたが、安家地区が孤立状態から脱したのは僅か数日前でした。活動は主に家屋の床下に入り込んだ泥の撤去作業です。泥は乾燥して固まってしまう前に出さないといけないので時間との戦いです。

地区には災害ボランティアセンターのサテライトが設置され、ボランティア団体の「Open Japan」が運営を取り仕切っています。床下の泥出しは小柄な女性が適しているということで、主に女性が最前線で頑張っています。男性陣は掻き出した泥を土嚢袋に詰めて家屋の前に積み上げたり、家の周囲に流れ込んでいる泥や瓦礫の撤去を行います。

初日に活動に入ったお宅は80代のおばあちゃんの一人暮らしの家。新しい家で躯体は何も問題がなさそうだが、家の周辺、床下全てに泥が20～30cmくらい堆積している。当日は水が鴨居くらいまであがってきて、あつという間に向かいの家が流され、おばあちゃんは浮き上がってきた畳にしがみついて水の引くのを待ったとの事。「生きた心地がしなかった」そうですが、助かって本当に良かった。



流木が民家を破壊し、川べりの家は流された生々しい傷跡

台風10号概要(出典:ウィキペディアほか)
8月20日前後に熱帯低気圧が大型の台風に発達。日本の南で複雑な動きをしたあと北上し、8月30日18時前に岩手県大船渡市付近に上陸。気象庁が統計を取り始めて以来初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風となった。岩手県では、29日から30日にかけて沿岸北部・沿岸南部を中心に雨が降り続いた。30日夕方から夜のはじめ頃にかけては局地的に猛烈な雨を観測し、総降水量が約300ミリの大雨となった。岩泉町など県内各地で統計開始以来の極値を更新した。台風はその後北海道にも大きな被害をもたらした。
1時間雨量: 岩手県岩泉町(岩泉): 70.5ミリ(30日18時21分まで)
3時間雨量: 岩手県岩泉町(岩泉): 138.0ミリ(30日18時20分まで)

Column

熊本地震に関する調査から興味深いことがわかりました

家族の安否を知るために利用しようとした通信手段

固定電話：6.7%
公衆電話：0.9%
携帯電話・スマートフォン（音声）：59.3%
携帯電話・スマートフォンのメール：28.4%
パソコンメール：1.5%
フェイスブックやライン等のSNS：19.3%

常に利用できた通信手段

固定電話：31.8%
公衆電話：33.3%
携帯電話・スマートフォン（音声）：22.7%
携帯電話・スマートフォンのメール：41.9%
パソコンメール：20.0%
フェイスブックやライン等のSNS：81.0%

調査の対象日時は14日の前震後。4月16日の本震発生後も同様の傾向だったという。

利用者は全体の2割にとどまりながら、SNSが災害発生時の有効な連絡手段になると実証された。

調査はサーベイリサーチセンター（東京）が東京大学総合防災情報研究センターの監修でまとめた「平成28年（2016年）熊本地震被災地における避難状況およびニーズ調査」。この調査は、益城町災害対策本部の了承のもと、町内の避難場所生活している人を対象として、4月14日の前震発生以降の被災と避難の状況、避難場所での生活ニーズ、今後の居住意向などを探ることを目的に実施した。有効回答数は327で、このうち益城町居住者は301。サーベイリサーチセンターホームページから引用)

葉山まちあるき

「葉山をもっとよく知ることが非常時の備えになる」をスローガンに昨年度は3回実施しました。

「葉山まちあるきNo.4：堀内探検」（6月4日）
堀内地区の地勢、防災倉庫、一時避難所等を確認しました。探索中は三ヶ浦町内会長さんの説明を聞きながら歩き、一般参加の地域住民との交流も楽しみました。14名参加。終了後には被災地から取り寄せた食材でバーベキュー懇親会を行いました。18名参加。

「葉山まちあるきNo.5：一色パート①（山側）探検」（10月8日）
一色地区を2回に分けて行う1回目。山側の地勢、防災倉庫、避難広場整備状況等を確認しました。エコーハイツではエコー会、一色岡会館では一色台自治会、一色第一町内会、一色第二町内会の役員の方々と意見交換を行い、探索中も地域住民と交流しました。23名参加。

「葉山まちあるきNo.6：一色パート②（海側）探検」（12月3日）
一色台から一色浜地区（一色の海側）の地勢、防災倉庫、避難広場整備状況等を確認しました。また、旧役場前広場で一色第四町内会長さんの説明を、森山神社では一色第五町内会役員の方の説明を受け、その後地区の案内をしていただきました。14名参加。

次回は6月17日（土）です！

No.4に引き続き、堀内の残りの地域を回り、長柄地区方向に向けて歩く予定です。詳細は5月末にお知らせいたします。

お問い合わせ：メール hsvn77@yahoo.co.jp
FAX・TEL 046-875-1839（矢嶋）